

↓ 当案内および過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [50116] PD-L1 (SP263) 胃癌《IHC法》
- [50117] PD-L1 (SP263) 子宮体癌《IHC法》

受託開始日

- 2026年7月16日(木)



PD-L1 (SP263) 胃癌《IHC法》、PD-L1 (SP263) 子宮体癌《IHC法》

PD-L1 (SP263) 《IHC法》は、癌組織中のPD-L1タンパクの発現状況を把握し、免疫チェックポイント阻害薬の適切な投与を行うための補助を目的とした検査です。

本検査は、これまで非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブ、デュルバルマブおよびセンプリマブの適切な投与を行うための補助として承認されていましたが、この度新たに、胃癌および子宮体癌に対する治療薬投与前検査として一部変更が承認されました。つきましては下記検査の受託を開始いたします。

- ・PD-L1 (SP263) 胃癌《IHC法》は、治癒切除不能な進行・再発の胃癌患者に対するチスレリズマブ（商品名：テビムブラ）の適切な投与を行うための補助に用いる検査です。
- ・PD-L1 (SP263) 子宮体癌《IHC法》は、進行・再発の子宮体癌患者に対するデュルバルマブ（商品名：イミフィンジ）の適切な投与を行うための補助に用いる検査です。

検査要項

項目コード	50116	50117
検査項目名	PD-L1 (SP263) 胃癌《IHC法》 ^{*1}	PD-L1 (SP263) 子宮体癌《IHC法》 ^{*1}
検 体 量	未染標本スライド 各5枚（4～5μm厚） ^{*2} [容器番号：30番]	
保 存 方 法	常温	
検 査 方 法	免疫組織化学染色	
報 告 様 式	TAP 1%未満 1%以上5%未満 5%以上10%未満 10%以上 評価不能	TAP 1%未満 1%以上 評価不能
	※上記の病理判定と組織所見をご報告いたします。	
所 要 日 数	6～10日 ^{*3}	
検査実施料	2700点 ^{*4} （[N005-3] PD-L1タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製）	
判 断 料	130点（病理判断料）	
備 考	*1：ご依頼の際は「病理（特殊染色・免疫染色）検査依頼書」をご利用ください。 *2：スライドは剥離防止コートスライドガラスをご使用ください。組織標本の固定は10%中性緩衝ホルマリンが推奨されています。スライド枚数については、再検査用の検体も含んでいます。（推奨固定時間：6～72時間） *3：所要日数に再検査の日数は含まれません。また、パラフィンブロックでのご依頼の場合は別途日数がかかります。 *4：抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤または抗PD-L1抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的に行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。	

TAP (Tumor Area Positivity)

腫瘍領域の面積に対して、PD-L1陽性反応が認められる腫瘍細胞とPD-L1陽性反応が認められる腫瘍関連免疫細胞が占める面積の割合を算出し、腫瘍領域に対する陽性領域の面積割合（TAP）を評価する判定方法です。